

ビキニデー集會に再びお招きいただき、ありがとうございます。特に今年のビキニデー集會の日程は、ベトナムのハノイで開かれている第二回目の朝米首脳会談と、ほぼ正確に重なっています。全体集會が行われているこの瞬間にも、去年から始まった朝鮮半島での歴史的局面は現在進行中です。

しかし私たちは、スペクタクル政治の光景、またはその裏での交渉の綱引きや取り引きだけに目を奪われてはいけません。市民の目線から現在の局面を解釈して、その解釈に基づいた実践を、現実の中で、貫いていくことが求められているのではないのでしょうか。

朝鮮半島の平和局面は、朝鮮半島の平和と非核化だけでなく、この地域に依然として残されている東アジア冷戦の構造を解体し東アジア国際秩序を変革する歴史的機会だと考えています。朝鮮半島の分断体制は、植民地主義・帝国主義、米ソ冷戦の産物であり、東アジア冷戦の焦点でした。世界の冷戦が崩壊した後は、東アジア地域で冷戦構造が生命力を維持する「餌」のような役割もしてきました。東アジア冷戦を作り出したサンフランシスコ条約は、朝鮮戦争の最中だった1951年に採決され、同じ日に日米安保条約も結ばれました。

1965年の韓日条約はそのサンフランシスコ条約の下でできました。振り返ってみれば、歪んだ戦後の韓日関係と朝日関係も、朝鮮半島分断体制と東アジア冷戦によって作り出されたものなのです。戦後東アジアの冷戦は、朝鮮半島と日本の間に横たわっている帝国主義遺産の清算と脱植民地主義の課題を封鎖してきました。

朝鮮半島の平和プロセスが目指しているのは、朝鮮半島の平和体制です。去年4月27日の板門店宣言に盛り込まれているとおり、朝鮮半島の平和体制は南北の不可侵、軍事的信頼構築、軍縮であり、朝鮮半島の分断と対決構造を支えてきた停戦状態—すなわち、戦争状態—を平和体制に転換する平和条約です。そのプロセスを原動力として、「朝鮮半島の完全な非核化」、9月のピョンヤン宣言の表現を借りれば、「朝鮮半島を核兵器も核の脅威もない平和の地としていく」ことが達成できるのです。またその平和プロセスの中で必要不可欠な柱が、シンガポール共同声明に明記されている「朝米の新しい関係樹立」です。

従って、70年にわたる朝米の敵対関係が変わり、そして平和プロセスの前進によって朝鮮半島の分断体制が揺れば、東アジアの国際秩序も大きく変わらざるをえません。

私たちは、東アジアの新しい国際秩序を作り出していく上で、一過去、現在、未来にかかわる一さまざまな歴史的課題（historic challenges）に真正面から向き合わなければならないこととなります。

そのような変革の時期だからこそ、この地域の課題を話し合いを通じて解決していくための協力枠組みが求められているのです。国家と国家の関係からすれば、多国間協力体でしょう。一方、市民の視点からすれば、国境を乗り越える国際連帯なのです。これから私たちが作り出していくべき東アジアの新しい国際秩序の行方に、座標を示すのはその市民連帯なのです。

現在進行中の朝鮮半島平和局面に対しては、懐疑的な見方も少なくありません。また朝鮮半島の内外には既成秩序の動揺に抵抗する勢力も存在しています。彼らは既得権益勢力（establishments）なので相当なパワーを持っています。朝鮮半島をめぐる国際政治はもっと複雑で、朝鮮半島は昔から東アジア国際政治の矛盾が凝縮し、強大国の利害関係が交差する空間でした。朝鮮半島の情勢が激動している現在も、米中の微妙な緊張関係をはじめとする強大国の政治が、朝鮮半島を取り巻く国際政治に絡み合っています。

今日、首脳会談の合意文書が公開されれば、きっと色々批判の声が出てくるでしょう。すでにアメリカのマスコミとオピニオンリーダーは、懐疑的でシニカルな態度を取っていますし、日本の安倍首相は「合意文書に非核化措置が盛り込まれても北朝鮮への人道支援や北朝鮮との経済協力はしない」と明言しています。河野外相は「金剛山観光や開城工業地区の再開に反対」という発言をしました。韓国のマスコミの中でも、合意可能性のある内容を取り上げながらどちらの勝利になるかなどを書いた報道を流したりしています。

しかし皆さん、平和は、国際政治学の言葉を使えば、「共通の利益—英語では、Common Interest」です。誰かのものではありません。誰かにあげる報償でもありません。皆が享有するものなのです。

「反核、平和、人権、環境、歴史正義、マイノリティーの権利」という普遍的価値に基づいた、国境を越える市民連帯の力が問われているのではないのでしょうか。朝鮮半島から東アジア国際秩序の変革の風が吹き始めた今現在、そしてこれからが、韓国と日本、韓国とアメリカを含む市民連帯がさまざまな分野と色々な場面で蓄積してきた力を発揮していかなければならない時期であると確信しています。

ご静聴ありがとうございます。